

感染性胃腸炎の集団発生について

感染性胃腸炎を疑う嘔吐・下痢の発症者が30名以上の集団発生がありました。

- 学校法人 おおひらがくえん 大平学園 認定こども園 いそはら幼稚園

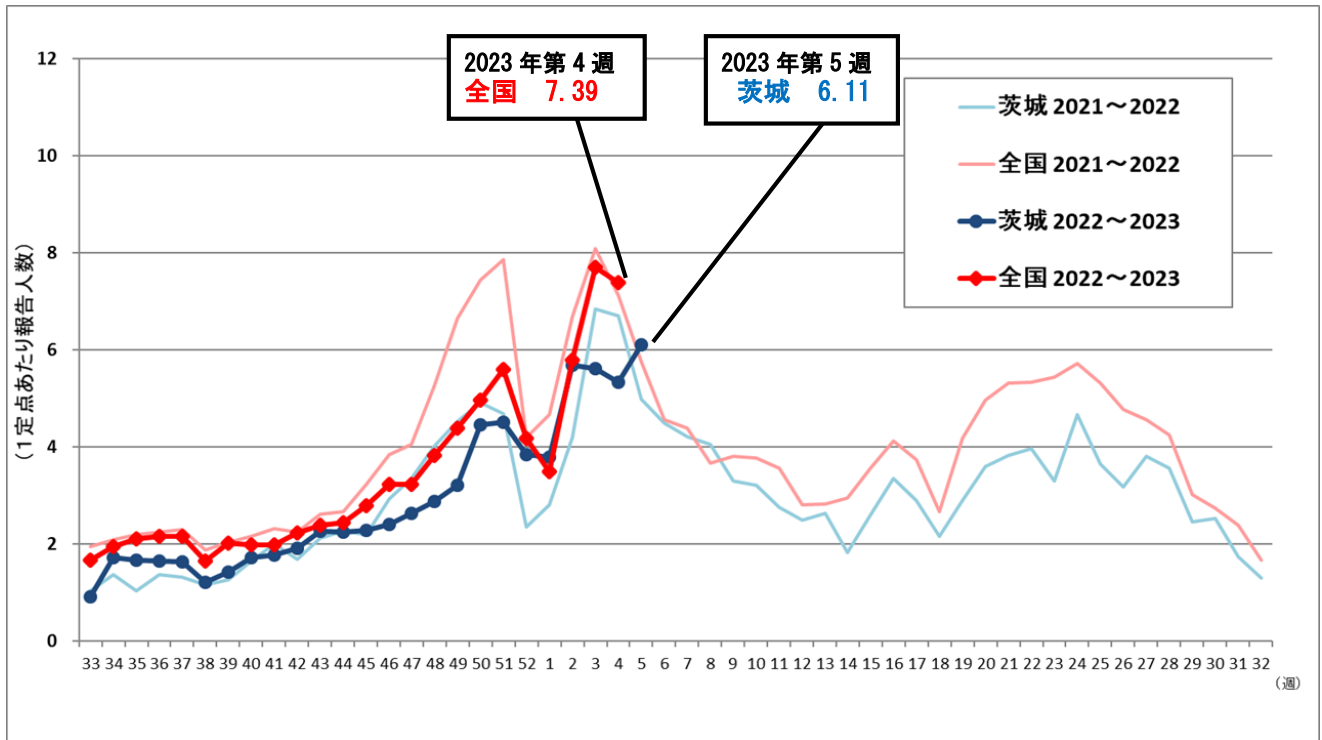
(詳細は別添をご参照ください)

感染症発生動向調査による感染性胃腸炎の流行状況は、以下のとおりです。

2023年第5週(2023年1月30日～2023年2月5日)の定点当たり患者報告数: 茨城県 6.11

感染性胃腸炎は、例年、秋から春先にかけて患者数が増加しますが、1年を通じて注意が必要な疾患です。県民の皆様には、帰宅時・食事の前・トイレの後の手洗いなど感染予防の徹底をお願いいたします。

感染症発生動向調査(定点当たりの患者報告数の推移)



◆値は速報値です。今後数値に若干の変更が生じる場合があります。

<参考>

◎ 茨城県内の感染性胃腸炎の集団発生状況

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
茨城県	6件	17件	49件	9件	6件	6件	4件	9件	7件	5件

(注1) 集団発生状況は、医療機関・学校・社会福祉施設等において30名以上発生した件数を計上。

(注2) 2023年の茨城県の発生数は、今回の発生を含んでいます。

※感染症発生動向調査(定点当たりの患者報告数の推移)

感染性胃腸炎は定点把握疾患であり、県が指定した県内75か所の小児科を標榜する医療機関を定点として指定し、その定点の医師から1週間に感染性胃腸炎と診断された患者数を保健所に報告いただいている。その患者数の総数を定点数(75)で除した数字で流行状況を把握している。(感染性胃腸炎 警報発令基準:20 警報解除基準:12)

集団発生事例

日立保健所管内 おおひらがくえん 学校法人大平学園 認定こども園 いそはら幼稚園

施設長氏名	おおひら <small>いくこ</small> 大平 育子	所在地	きたいげらきしいそはらちやうとよだ 北茨城市磯原町豊田920		
主な症状	嘔吐・下痢	園児数	372名	職員数	90名
発症者の状況	2月1日に「学校等欠席者・感染症情報システム」による施設からの報告で探知しました。 日立保健所で調査したところ、1月27日から2月9日までに嘔吐・下痢等の症状を呈した園児(0～5歳)、職員(20～50歳代)があわせて60名となったことが判明しました。 この嘔吐・下痢等の症状による入院者・重症者はおらず、発症者は全員快方に向かっております。				
検査及び結果	県衛生研究所で8名(園児2名、職員6名)の検体(便)を検査したところ、4名(園児2名、職員2名)の検体からノロウイルスが検出されました。				

発症状況 (実人員)

区分	1/27 (金)	1/28 (土)	1/29 (日)	1/30 (月)	1/31 (火)	2/1 (水)	2/2 (木)	2/3 (金)
園児	3	0	0	16	9	5	1	5
職員	1	0	0	1	0	1	0	2
計	4	0	0	17	9	6	1	7

区分	2/4 (土)	2/5 (日)	2/6 (月)	2/7 (火)	2/8 (水)	2/9 (木)	計
園児	0	0	8	4	1	3	55
職員	0	0	0	0	0	0	5
計	0	0	8	4	1	3	60

発症者の年代別内訳 (実人員)

園児	区分	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	計
	男児	4	4	11	1	6	4	30
女児	10	2	6	2	2	3	25	
計	14	6	17	3	8	7	55 (55/372人)	

職員	区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	計
	男性	0	0	0	0	0	0
女性	1	2	1	1	0	5	
計	1	2	1	1	0	5 (5/90人)	

- 施設の対応状況
- ① 園児及び職員の健康観察の徹底
 - ② 症状出現時の早期発見・早期対応・早期受診
 - ③ 職員・園児の標準予防策及び接触感染予防策の徹底
 - ④ 施設内の消毒の実施
 - ⑤ 職員及び保護者の注意喚起の実施
 - ⑥ 学年閉鎖(0歳児クラス、2歳児クラス)の実施

※ 学校等欠席者・感染症情報システムとは、保育園・学校等において、園児・児童・生徒が感染症と診断されて欠席した場合や、発熱、下痢、嘔吐といった症状を呈して欠席した場合等に、その内容を記録するシステムです。その情報を保健所等の関係者間で共有することにより、感染症の集団発生を早期探知するためのシステムであり、公益財団法人日本学校保健会が運営しています。

感染性胃腸炎に注意しましょう

- 感染性胃腸炎とは、ウイルスや細菌などが原因となって引き起こされる胃腸炎の総称です。感染性胃腸炎のなかで、もっとも多いのがウイルス性胃腸炎で、原因となるウイルスは「ノロウイルス」、「ロタウイルス」などがあります。
- 「ノロウイルス」による感染症や食中毒は一年を通じて発生していますが、例年冬になると発生のピークを迎えます。「ノロウイルス」は、少量でも感染力がとても強いことが特徴です。

症 状

ノロウイルスに感染すると 24～48 時間の潜伏期間を経て、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱などの症状がみられます。通常、これらの症状が 1～2 日続いた後、治癒し、後遺症もありません。

主な感染経路

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、経口感染が主な感染経路とされています。主に次のような感染が考えられます。

- 患者の便や嘔吐物などに触れた手から口に入る場合。
- 感染した人の調理や配膳などにより汚染された食品を食べた場合。
- 汚染されていた食品を、生あるいは加熱不十分で食べた場合。
- 家庭や共同生活施設など人同士が接触する機会が多いところで、人から人へ直接感染する場合。
- 感染した人の便や嘔吐物が乾燥して、細かな塵として舞い上がり、その塵と一緒にウイルスを吸い込んだ場合。



感染予防のポイント

- ① 基本的な予防方法は手洗いです。特に、排せつのあと、調理や食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- ② 食品は十分に加熱調理しましょう。食品の中心部で 85℃以上 90 秒間以上の加熱が必要です。
- ③ 感染を広げないための注意点
 - ・ 便や嘔吐物の処理のあと、排せつのあと、調理や食事の前には必ず石けんと流水で丁寧に手を洗い、手洗い後は、ペーパータオルか個人用のタオルを使用しましょう。
 - ・ 患者の便や嘔吐物を処理する場合は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、適切な方法（リーフレット参照）で処理しましょう。「ノロウイルス」に効果がある消毒薬は、次亜塩素酸ナトリウムです。

感染性胃腸炎かなと思ったら

乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので、早めに医療機関を受診することが大切です。嘔吐の症状がおさまったら少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をするよう心がけましょう。

◎ 感染性胃腸炎に関する詳細情報は、下記のホームページをご覧ください。

- ◆ リーフレット「ノロウイルスに注意！！」 茨城県感染症情報センター ホームページ
<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/other/documents/noro-leaf.pdf>
- ◆ 「ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒の予防について」 厚生労働省ホームページ
http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/qa/about_norovirus_qa.html